



対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

対馬丸 通信

発行：(財) 対馬丸記念会
発行人：高良 政勝
編集：対馬丸記念会事務局

Tsushima maru press

平成 19 年 8 月 22 日発行 第 13 号

特集 旭ヶ丘公園をチョウが舞う平和の杜に !!



5月27日(日) 梅雨のあいまの暑い日差しのなか、こんなに多勢のご参加ありがとうございました、そしてご苦労様でした。

巻頭随想

チョウへ込める平和への想い

対馬丸記念館副館長 外間邦子

対馬丸記念館は多くの方々のご支援とご協力をいただき、来る八月二十二日に開館三周年を迎えます。

これまで企画展や健康講話等を実施し館内での事業を中心に活動してきました。今後は更に常設展示の充実を計り、未来に向けて平和を発信し続ける事が望まれます。独自事業に留まらず、平和の拠点に相応しい環境づくりにも力を注ぎたい所存です。

幸い対馬丸記念館が建つ旭ヶ丘公園には、小桜の塔や海鳴りの像をはじめとする慰霊碑と歴史的な記念碑が数多く建立されており、平和と歴史を学ぶ環境として最適な公園です。

対馬丸記念館ではこの意義深い公園を「平和の杜」として広めて行くことにしました。

折りしも対馬丸記念会の上原妙前会長より、旭ヶ丘公園にオオゴマダラを飛ばそうと勧められ、「平和の杜」のシンボルになるかもしれないとチョウに興味をもつようになりました。「首里城下にチョウを飛ばそう会」の大城安弘先生より、ギリシヤ語でチョウのことをプシユケー(魂・精霊)と言うことを教わりました。チョウは成虫↓卵↓幼虫↓蛹↓チョウと外形は変わっても魂は一貫して受け継がれるからだそうです。オ

オオゴマダラのお名前は、ウチナーグチ(方言)でアンマーウーヤー(お母さんを追って歩く)といわれ、私はそれを聞いた瞬間に母をさがす対馬丸の子供たちの顔を思い浮かべました。

去る五月二十七日、旭ヶ丘公園に「首里城下にチョウを飛ばそう会」の会員の皆様をはじめ若狭地域の方々、遺族、ガールスカウト沖縄第36団、地域の子供達など二百余名の皆さんが参加して下さい、ホウライイカガミ・トウワタ・ギョボク・シークアサー等、六百二十一本の植栽が行われました。

いつの日か、対馬丸の子供たちの魂と蝶のプシユケーが平和の使者として飛び交い「平和の杜」に皆が集う日が来ることを願っています。

「首里城下にチョウを飛ばそう会」の大城安弘先生はじめ植栽に参加して下さいました方々に心から感謝いたします。



対馬丸記念館では、小桜の塔と記念館が立地する旭ヶ丘公園を、蝶が舞う平和の杜にしようと、若狭一丁目自治会(系数 武会長)と共同で取り組んでいます。去る五月二十七日、指導を仰ぐ「首里城下にチョウを翔ばそう会(高良鉄夫会長)」の呼びかけで、チョウの食草を同公園で植栽することができました。

当日は梅雨の合間の暑い日差し
のなか、呼びかけに賛同して
いた、ガールスカウト・地域住
民・遺族など多数の方々に参加
いただき、無事六百本余りが公園
内の適地に植えられました。



上原勝信首里城下にチョウを翔ばそう会副会長



當銘芳二那覇市副市長



高良政勝対馬丸記念館館長

開始式では、主催者の首里城下
にチョウを翔ばそう会上原勝信副
会長が、同会の五周年記念誌巻頭
の「発刊にあたって」で、高良鉄夫
会長がふれている波の上のチョウ
のこと(別掲文章)を織りまぜて採
擧し、続いて、対馬丸記念館高良政
勝館長が参加者の皆さんへ感謝の
言葉を述べ、當銘芳二那覇市副市
長より来賓祝辞(市長代読)を頂戴
しました。



植栽を開始する前にオリエン
テーションがあり、首里城下に
チョウを翔ばそう会、大城安弘
幹事長より、食草の種類等の説明
をうけました。

参加者は、事前に計画された配
置案に添って割り振られ、短い時
間で効率的に作業が終了しました。



また、それに先立つ四月一日に

は、波の上ビーチの海開きにおい
て、那覇市観光協会(米村幸正会
長)から若狭一丁目自治会の公園
愛護会「ワカサクリーンズ」にオオ
ゴマダラを飼育繁殖させるチョウ
ハウスが寄贈されました。
来賓で訪れた翁長雄志那覇市長

も、波の上ビーチや旭ヶ丘公園が
昔のようにチョウが飛び交う、市
民の憩いの場としてもそうですが、
観光客にとっても素敵な場所にな
り、観光客一千万人に貢献する那
覇市の名所になるよう、市として
も努力致しますと話されました。



上 チョウハウスをご覧になった翁長雄志那覇市長 (4月1日)
左 式典後、當銘芳二那覇市副市長も植栽して下さいました



●シークワサー
沖縄の柑橘類の代表。高
さは5mほど。花期は4
月。直径3cmほどの白
い花を咲かせる。



昔の波上界隈のように、チョウが飛び交う素敵な公園を夢見て、みんなで一生懸命植えました。



記念館屋上に植栽する、遺族・生存者の皆さん



小さな子ども達も一緒に



チョウに取り組みきっかけ作りした、上原妙前会長も嬉しそうに



今回植栽した食草類

●ホウライカガミ
オオゴマダラの幼虫の食草で、ツル性の植物。隆起珊瑚礁の海岸に多く自生する。



●トウワタ
チョウの蜜源や食草となり、かわいい花を咲かせる多年生草本。



●ギョボク
ツマベニチョウの食草でイカ漁の擬似餌に加工されることが多いことからこの名がついた



首里城下にチョウを飛ばそう会 創立五周年記念誌 「チョウ・人の楽園を目指して」より転載

首里城下にチョウを飛ばそう会 会長 高良 鉄夫

おわうるわしきかな、嬉しきかな、陽春の朝の椿事である。金城ダムの北端に立つ初老の男性と女性、四人の孫らしき子どもを伴っており、ダム南側の緑豊かな花にうっとりしていると思っただが、そうではない。女性が指差す方向に視線を向けると、オオゴマダラが悠長な恋愛飛行をしながら南下している。伴われた孫たちがはしゃいだのは、二頭のチョウの蜜月飛行である。

オオゴマダラノ舞姿は、首里地区

を始め、那覇市識名・大道・壺屋・与儀・奥武山公園等で多くの市民によって目撃されており、それは、首里城下にチョウを飛ばそう会の活動実績の証左であろう。首里城下にチョウを飛ばそう会が発足したのは二〇〇一年。その翌年の三月十日に首里城公園上の毛において盛大な植樹(チョウの食草、蜜源植物)が行われた。以来、首里城下にチョウを飛ばそう会では、龍潭周辺、末吉公園、金城ダム、南部・こ

ども医療センター及び沖繩平和祈念公園等において数々の植栽を実施してきた。

(中略)

市民の協力を得やすくするため、温故知新、那覇市におけるチョウの名所と特性について述べよう。一、波の上宮東側の入江はオオゴマダラの終着駅？

昭和五年の夏の出来事である。波の上の海水浴場や入江には無数のオオゴマダラが乱舞しており、学童

どもが興味深く見ていたのである。こんなに多くのオオゴマダラは、どのようにしてどこから飛来したのだろうか。当時入江の岩盤上には無数の墓地があり、その周辺にブツソウゲが植栽されていた。岩石地には幼虫の食草であるホウライカガミガ自生しており、オオハマボウ等が満開であった。食草と蜜源植物に恵まれていたことが、終着駅同然の存在になったのであろう。

二、奥武山周辺路上の水溜まりは大昭和九年真夏の珍事である。奥武山周辺路上の水溜まりに多数の大型チョウが集まっていた。その由来

時に体験したことは、古い水溜まりは、大型チョウの集散地になっていた。その他末吉公園等、著名な場所もあるが、紙面の都合上割愛する。

(以下省略)

視察

□ 4月13日

沖縄県福祉保健部 道躰正成参事、福祉保健企画課 新垣昌頼事業調整監、福祉保健企画課 浦崎英雄参事兼課長(左から)



□ 4月20日

対馬丸発見に大きな力を発揮して頂きました、鈴木宗男先生(当時沖縄開発庁長官) が開館記念式典以来、二度目の記念館視察をされ



ました。今回はじっくりと館内をご覧いただきました。

□ 5月28日

内閣府沖縄振興局参事官(特定事業担当)付 津嘉山和夫主査(右)



□ 6月20日

内閣府沖縄振興局 仲程倫由参事官(特定事業担当)(右)



イベント

□ 5月12日

名護市豊原のGODAC(国際海洋環境情報センター)において「こうして対馬丸は見つかった」の話が行われました。以前に対馬丸記念館でもご講話頂きました、独立行政法人 海洋研究開発機構の土屋博士が北部地区の児童に、対馬丸を発見したときの様子や海洋探索の技術的な話をスライドを交え解りやすく解説しました。講演終了後、高良会長が、対馬丸のことや記念館について児童と付き添いの父兄に説明しました。



□ 5月27日

特集でも伝えた通り、チョウの食草約六百本を植栽しました。

□ 6月23日

第8回対馬丸記念館特別展「沖縄戦時下の住民―かくして沖縄は戦場となった―」が8月29日まで

の会期で始まりました。同展は昨年沖縄県平和祈念資料館で開催された第7回特別企画展「沖縄戦における住民動員」の移動展示として、那覇市において一般公開されるものです。

防衛隊、学徒隊、義勇隊と県民が根こそぎ動員された過程を、写真と資料とで解りやすく解説していきます。遺族・協力会員の皆様には是非ご覧いただきたいと思っております。



理事会・評議員会

□ 5月16日・5月19日

平成十九年度第一回理事会、評議員会がそれぞれの日程で行われ、十八年度の決算が承認されました。同時に今年度の改選役員の承認が行われました。新しい役員は次の方々です。

新理事・嘉数昇明氏、湧川ふき子氏、新監事・照屋寛氏、新評議員・安次富長昭氏、親泊一郎氏、座喜味和則氏(新評議員各氏はそれぞれ理事経験者)



寄附

□ 4月1日〜7月15日

大森節子、大浜浩孝、重田辰弥、石原洋、石原桂子、大城裕行、松田政勝、沖縄尚学高等学校、外間邦子、高良政勝、新垣よしみ、草津市立老上中学校、小野里敬裕、学校法人KBC学園、砂川歯科(毓男)、富原盛弘、たから歯科、琴の音保育園、結サンサンプロジェクト喜納優子、友寄賢吉、上原妙、當山健、伊吉信子、京都だん王保育園、那覇パプテスト協会沖縄友の会、琉智(敬称略)以上の方々からご寄付をいただきました。心よりお礼申し上げます。